

助産学実習Ⅱ

責任者・コーディネーター	成育看護学講座 遊田 由希子 特任教授		
担当講座・学科(分野)	成育看護学講座		
対象学年	4	区分/単位数	実習/8単位
期間	後期		

・学修方針(講義概要等)

妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にある対象者が有する生理的能力を十分に引き出す助産ケアを提供できるよう、その身体的および心理社会的特性を踏まえた助産過程の展開を通じ、基本的な助産診断・技術力を習得する。具体的には、受持ち事例に対する分娩介助を含む分娩期(分娩第1期～第4期)の助産過程の展開と助産ケアの実施および産褥期・新生児期の助産過程の展開と助産ケアの実施を行う。その他、妊娠期における助産ケアの実際についても体験的に学修する。

・教育成果(アウトカム)

妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にある対象者が有する心身の特性を踏まえた助産過程の展開を行い、基本的な助産診断方法と助産技術を習得することができる。また、対象者が有する生理的能力を十分に引き出すための保健指導に参加し、その展開方法について知ることができるようになる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。

1	医療人としての全人的人間性をもち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
3	看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
5	患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。
7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。
8	コミュニティにおいて、医療職福祉職以外の人や機能と連携し、健康上の課題の解決に向けたネットワークが形成できるように看護職者の地域活動の機能を理解する。

・到達目標(SBO)

1. 分娩期における助産過程を展開し、個々の健康状態や分娩経過に応じた助産ケアを実施することができる。
2. 安全および安楽を確保した分娩介助技術を習得することができる。
3. 分娩を介助した事例の産褥期および新生児期の助産過程を展開し、個々の健康状態に応じた助産ケアを実践することができる。
4. 妊娠期における助産過程を展開し、個々の健康状態に応じた助産ケアを実施することができる。
5. 妊娠期および産褥期における保健指導(集団・個別)の実際に参画し、実施する際の留意点や重要点を述べるることができる。
6. 妊娠期から育児期を通しての助産師の役割について自分なりの考えを述べるることができる。

・実習日程

日程	7/22(月)～9/27(金) ※うち8週間
担当教員	成育看護学講座 蛸崎 奈津子 教授 遊田 由希子 特任教授 西里 真澄 講師 高橋 淳美 講師
授業内容/到達目標	【授業内容】 ・分娩期における助産診断と助産ケア ・産褥期および新生児期における助産診断と助産ケア ・妊婦健診および保健指導 ・母親学級、母乳外来、助産外来および産後1か月健診など ※詳細は、実習要項に記載する 【関連するSB0】1. 2. 3. 4. 5. 6 【事前学修:3000分】分娩介助練習、助産ケアを展開するための予習と保健指導の立案と練習 【事後学修:3000分】分娩介助の振り返り、受け持ち事例の助産過程の記録、妊娠期における個々に応じた助産ケアの振り返り

・教科書・参考書等

教科書・参考書等		教:教科書	参:参考書	推:推薦図書
	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期	我部山キヨ子	医学書院	2021
教	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期	我部山キヨ子	医学書院	2021
教	助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期	石井邦子	医学書院	2021
参	産婦人科診療ガイドライン産科編 2023	日本産科婦人科学会		2023

・成績評価方法

【総括的評価】 実習記録60%、実習態度40%にて評価する。なお、実習態度については実習評価表に基づいて評価する。
【形成的評価】 外来健診、分娩介助ごとに記録物の提出を求める

・特記事項・その他

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】 提出された記録物等については、適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。
【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 助産師(別表2):臨地実習 助産学実習

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			